

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 鎌ヶ谷市こども発達センター

公表日 1/7/2026

利用児童数 25人

回収数 21枚

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	21					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	1			・職員数を増やしていただければ、さらに良い教育環境につながると思います。	・職員の配置につきましては、研修等で不在の場合もありますが、法令で必要とされる職員配置数以上を確保しております。今後も保護者のお気持ちに寄り添い、一人一人のお子さんに応じた支援を努めていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21					
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等にに応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20	1			・とても丁寧に的確に計画を立てていただけて、目標や活動の狙いを意識して参加できています。	・今後も、一人一人に合わせた個別支援計画を作成します。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21				・PT・OTの先生からのアドバイスを担任の先生がしっかりと活動に取り入れてくださり、親への説明もしてくださるので、支援の効果を実感できています。保育園との連携も取っていただき、保育園生活への安心にもつながっています。	・今後も、担任、セラピスト、こども発達センター職員全員で、お子さんにとってより良い支援を考えていきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	1		1		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	13	2	3	3	・その様な交流がまだ無いため。	・交流保育につきましては、年長児・年中児を対象に保護者の希望制で実施しております。時期が来ましたら、担任より個別にお知らせいたします。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	20			1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていていると思いますか。	20	1			・日頃から一緒に成長に気付き、喜んでもらえ、一緒に育ててもらえていると感じられています。	・これからも、親子登園日、個別面談、電話、連絡帳などで、お子さんの少しの変化や成長を見つけ、伝えていきます。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	6	1	2	兄弟がいないため、利用していない。	親子活動日で保護者同士の交流をもつことができるよう心がけております。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	4		3	・確認していないため、わからない。	・かまっこ応援団で、のびのびルームの紹介をしております。また、配付物で情報を発信していますので、ご確認ください。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	1				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	21					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	20	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	21				・手厚い質の高いサポートをしてただけで、大変感謝しています。ありがとうございます！！	・日頃より、のびのびルームの運営にご理解、ご協力をいただきまして、ありがとうございます。今後も支援させていただきます。

<その他（欄外に記載あり）>

（ご意見）

・使用する道具類の多くは、先生方が補修をして大切に長く使われています。そのため、古いながらも清潔に保たれているものの、補修だけではどうにもならないものも多いと感じました。鎌ヶ谷市は、のびのびルームに対して新規物品の購入予算をもっと出して欲しいです。

（ご意見を踏まえた対応）

・貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。限られた鎌ヶ谷市の予算ではありますが、お子さんが興味を持って触れたり遊んだりできるよう、のびのびルームの新規療育物品の購入に充て、有効活用していきます。また、現在使用している療育物品につきましては、お子さんが安全に遊ぶことができるよう、引き続き定期的に破損等の点検を実施していきます。気になることがありましたら、ご相談ください。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		鎌ヶ谷市子ども発達センター				公表日	1/7/2026
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	25	2		・クラスによっては不適切	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	26		・話し合いをし、より良くしようとしている。	・職員の休みの日等、児の状態によって少ない日もある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	20	5			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	21	5		・室内が雑然としている。 ・施設が古く壁紙が汚れていたり、破れている所がある。掃除はしているが、見た目が汚らしく感じる。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	24	2		・部屋数が少ないので、曜日によっては使える部屋がない。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	22	2			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	25				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	23	3			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	17	5			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	26				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	26				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	26				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	26				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	26				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	24			・標準化されたツールの使用は少ない。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	25			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	24			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	25			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	25			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	25			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	24			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	25			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	24			
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	24		
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	24	1		
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	25			
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	25			
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	21	3		・今年度1月に実施予定。
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	23			・外部研修に参加している。
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	20			
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9				

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	26			・他園に行っている様子はあるけれど、たまには他園から来てもらうのも良いかとも思っています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	28			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	25	2	・保護者勉強会を年2回計画している。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	28			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	27			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	27			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	28			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	22	5		・兄弟同士の交流機会は設けていない。 ・兄弟同士の交流機会はどの程度できているのか具体的には知りません。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	28			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	28			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	28			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	28			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	10		・コロナ以降、行っていない。
非常時等の対	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	27	1		・保護者にどのように周知しているかわからない。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	28			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	28			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	28			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	27	1		

応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	23	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	26			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	25	1	・常に研修している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	24	1		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	鎌ヶ谷市こども発達センター		
○保護者評価実施期間	9/30/2025 ~ 10/16/2025		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25人	(回答者数) 21人
○従業者評価実施期間	9/26/2025 ~ 10/16/2025		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	28人	(回答者数) 28人
○事業者向け自己評価表作成日	11/21/2025		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数でのグループ編成で、担任制での療育を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には、年間変わらず同年齢児中心にグループ編成している。 担任だけでなく、多職種の職員が直接療育に加わり支援している。 個別指導や保護者との個別面談を定期的に行っている。 行事や活動によって、他グループと合同で行う内容を取り入れ、療育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事など他のグループと合同する場面で、お子さんの力が発揮できるような機会を作る。 季節ならではの遊びができる期間を多く持てるように、設定を工夫していく。
2	3歳児以上のお子さんは、週5日続けて利用することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 毎日続けて通園することで、療育の積み重ねをし、お子さんの成長を促している。 3歳未満児は体調も考慮して週2日通園とし、定期的に通いながら生活リズムを整えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日楽しみに通園できるよう、保護者と連携をとっていく。
3	保護者が療育に参加する機会が多い。	<ul style="list-style-type: none"> 親子登園日で療育と一緒に参加してもらうことにより、お子さんの成長や課題を確認をしたり、保護者の悩みに寄り添い、お子さんの関わり方を知らせている。 療育参観では、お子さんの様子を客観的に見ることが出来る。 必要に応じまたは保護者の要望を受け、担任だけでなく、多職種とも個別面談や相談をすることができる。 子育てやお子さんの発達について、いろいろな情報を得る機会が多くある。また同じ悩みを持つ保護者同士の情報交換の機会を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とお子さんの成長や課題を共有し、療育を行っていく。 懇談会や勉強会のテーマについて、保護者の関心のあることは何か、聞き取りをする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者が療育に参加する機会が多い。	<ul style="list-style-type: none"> 就労しながら利用している保護者が増えている。そのような方も、参加できるように調整をしていただいているが、難しい状況の方もいる。 保護者の方に参加していただきたい親子活動や懇談会、勉強会が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が可能な時間に電話対応をしたり、参観や面談(のびのびルーム以外での場所での実施やzoomなども取り入れる)を行う。 それぞれの家庭の事情に合わせて負担にならないように、親子活動日に懇談会や勉強会、面談などができるように調整していく。
2	地域との交流が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 市の中心部から離れていることから、交流が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共の交通機関や施設を利用するなど、グループごとのニーズに合わせ地域資源を活用した活動や園外活動を取り入れていく。 年長児と年中児の希望対象の交流保育を続け、地域もこどもとの交流を持つ。 公立保育園の園庭開放や児童センターに同行し、地域の公共施設を利用できるようにきっかけ作りを行う。

3			
---	--	--	--